

川田まちづくり計画

住んでみたい・住んで良かった、子供や孫に誇れる川田



新しいまちづくりは みんなの手で!!



旧川田駅舎の屋根塗装

平成 30 年 2 月

川田地区区長会、川田開発委員会、川田まちづくり計画策定委員会

川田まちづくり計画

目次

ごあいさつ

川田開発委員会 委員長	長田 健	2
川田まちづくり計画策定委員会 委員長（区長会長）	高山茂和	2
I 計画策定の背景と趣旨		2
II 計画策定の体制と実施期間		3
III 川田まちづくりの基本目標		3
1 まちづくりの目標		
2 具体的なすがた		
(1) 地域振興		
(2) 福祉教育文化		
(3) 道路交通		
IV 川田地区の概要		4
1 川田の沿革		
2 地理的環境		
3 川田地区の人口と将来推計		
(参考) 長野市の人口と将来推計		5
V 川田地区の課題		
1 アンケート結果		7
2 アンケート結果による今後の方向性		10
VI 実行計画		
1 地域振興事業		11
(1)若穂地区地域振興事業		
(2)川田地区地域振興事業		
2 福祉教育文化事業		12
(1)若穂地区福祉教育文化事業		
(2)川田地区福祉教育文化事業		
3 道路交通事業		13
(1)若穂地区道路交通事業		
(2)川田地区道路交通事業		
VII 資料		
1 川田駅活性化ボランティアの会規約		14
2 川田まちづくり実行委員会組織		15
3 川田まちづくり計画策定の経緯		16
4 川田まちづくり計画策定委員会名簿		17
5 川田駅跡地活用計画図		裏表紙
6 川田にかえる Uターン、Iターンシンボルマーク		裏表紙

ごあいさつ

川田開発委員会 委員長 長田 健

少子高齢化(一人世帯を含む)、人口減少(空家を含む)、教育、雇用の確保等大変難しい課題が山積する中、「住んでみたい・住んで良かった川田」「子供や孫たちに誇れる川田」を創るために、区長会、開発委員会等が中心となり、川田まちづくり計画策定委員会を立ち上げ、3部会(地域振興部会、福祉教育文化部会、道路交通部会)ごとに川田地区の課題を整理しました。

その内、若穂地区全体に係るものは若穂まちづくりに上げ、川田地区に係る課題については解決に向けた実行計画を策定いたしました。加えてアンケート調査を実施し、人口減少対策や旧川田駅周辺(駅舎・電車含む)について、可能な限り住民の皆様が求める、川田地区実行計画と致しましたので、実現に向けて住民の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

川田まちづくり計画策定委員会 委員長(区長会長) 高山茂和

計画の策定に関わった関係各位には心より御礼を申し上げます。

計画の策定には、たくさんの苦労がありました、会議を積み重ねながら住民の総意として、まとめるための討論を重ねるうちに目指すべき方向性が明らかになり、日頃の思いがたくさん詰まった計画となりました。

しかしながら実行するには熱意と努力が必要です。テーマに沿って興味をもって楽しく参加でき実行する計画にしていく必要があります。

大勢の参加を得てこの計画を進めてまいりますのでご協力をお願いします。

I 計画策定の背景と趣旨

1 背景

- (1) 川田開発委員会では、子供の流出(転出)等による人口減少、少子化に対し、市街化区域の指定の無い川田地域に住宅団地、雇用のための工業団地の開発が出来ないか、平成26年度長野市都市計画課・建築管理課による出前講座で勉強しながら、2箇所を候補地として検討しましたが、長野市の将来人口の8万人減少で市街化区域面積の減少を求められる中、市街化調整区域内での開発行為は難しい状況でした。

また、河川整備や高速道路の通過に伴う圃場整備実施箇所、土地改良事業実施箇所が多く、優良農用地解除も大変難しい状況でありました。

- (2) 平成27年度は長野市人口減少対策課による出前講座「長野市人口ビジョン」などで現状での人口減少対策は大変難しい課題と理解しました。
- (3) 若穂地区住民自治協議会の若穂まちづくり計画の策定で、川田まちづくり委員会の計画案を持って若穂まちづくりに参加致しました。

2 趣旨

この計画は、ほとんどが国県市などの行政に要請し実現することが多いが、行政に頼るだけでなく、川田地区住民自らが汗を流して実行することで、子供や孫達に少しでも誇れる故郷を残す一助になればと願った計画であります。

II 計画体制と目標期間

1 計画体制

川田まちづくり計画策定は区長会、川田開発委員会が主体となり公民館、育成会、PTA、区長会推薦や公募委員を含め川田まちづくり計画策定委員会として、地域振興部会、福祉教育文化部会、道路交通部会の3部会にわかれて課題を整理し絞込みをおこない計画を策定しました。

実行計画の内、地域で出来ることは、ボランティアとして実行部隊を構成し、川田独自の体制で対応することにしました。

2 目標年度

目標年次は平成29年度からおよそ10年間

III 川田まちづくりの基本目票

1 まちづくりの目票

目指す川田の姿は、

「若い世代が希望を持ち、皆が安全で安心できる環境の中で、いきいき暮らせる活力ある川田を創る」です。

川田地区の将来人口を可能な限り減少させない為には、合計特殊出生率（自然増減）や転入と転出（社会増減）の増加は、周辺地域と同じことや行政のやってくれることを待っていても達成は出来ません。

川田区民一人ひとりが一番効果を見込める目標「具体的な姿」に向かって真剣に行動することで、この地で将来をゆだねる、「**子供や孫に誇れる川田**」を創り上げることを目標としました。

2 具体的な姿

(1) 地域振興

- ① 安全で安心して暮らせるまち
- ② 若い世代が希望を持って帰ってこられるまち

(2) 福祉教育文化

- ① 子供や高齢者が一緒に生き活きと遊び学べるスポーツと歴史と文化のまち
- ② 住民が皆で創る生き活き福祉のまち

(3) 道路交通

- ① 通勤通学時に交通渋滞が緩和されるまち
- ② 公共交通が利用・維持されるまち

IV 川田地区の概要

1 川田の沿革

明治9年、町川田・東川田・小出村が合併し川田村になる。同12年更級郡牛島村が上高井郡下に入る。22年牛島村が川田村に合併する。

その後、昭和34年に綿内村、川田村、保科村が合併し若穂町となり、昭和41年に長野市に合併した。

2 地理的環境

長野市の南東、千曲川と犀川の合流地に位置し、千曲川の対岸は大豆島および真島で、北信五岳や北アルプスを望める地であります。

耕地は平坦地の海拔340mから小出橋で海拔385m。集落は国道403号、主要地方道長野菅平線、一般県道小出綿内線等や赤野田川、保科川沿いに集まっている。

千曲川と犀川の合流点牛島地籍は洪水の常襲地域（威の満水で村分断、明治12年まで更級郡）でありました。近年の地球温暖化に伴う集中豪雨前では、保科川や赤野田川も河川改修は行われているもの堤防の決壊や越流の危険性が予想されます。

一方、小出地区や町川田地区の山に沿っている地域は土砂崩れの恐れがあります。

土地利用は平坦部に集落・果樹園・畑地が多く、湿地部は水田、扇状地はりんご・ブドウ・桃などの果樹園に利用、上信越自動車道が縦貫している。

3 人口の推移

(1) 川田地区の人口推移と2040年の年齢構成イメージ

2010年の人口比率は、年少人口（0～14歳）11.2%、生産年齢人口（15～64歳）59.8%、老年人口65歳以上29.0%であります。

2040年の人口比率は、年少人口10%未満、生産年齢人口50%、老年人口40%以上と予想されています。

(2) 参考 長野市の人口の推移と将来人口

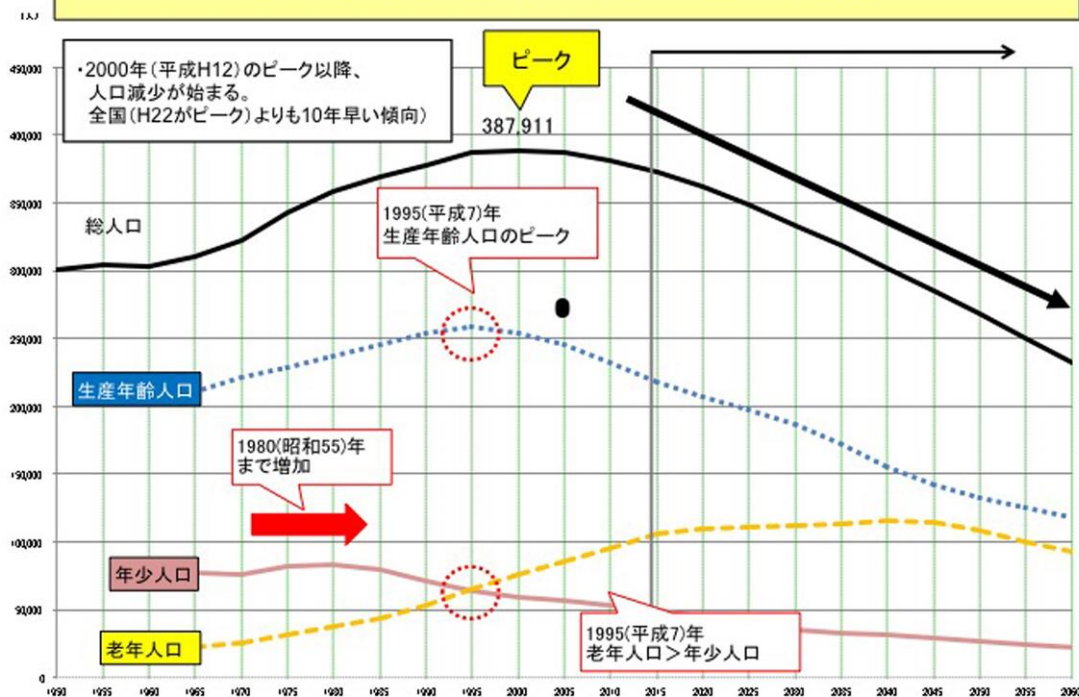
長野市では2,000年38万7千人をピークに減少し、2,060年の長野市の人口は23万2千人と予想しております。

これに対して、目指すべき将来の方向に沿った施策を進めることにより、将来人口2060年30万人の確保を目指しています。

長野市の人口

1

・2060年の長野市の総人口は、232,227人となり、25万人を割り込む見込み。(2010年比で約15万人減)

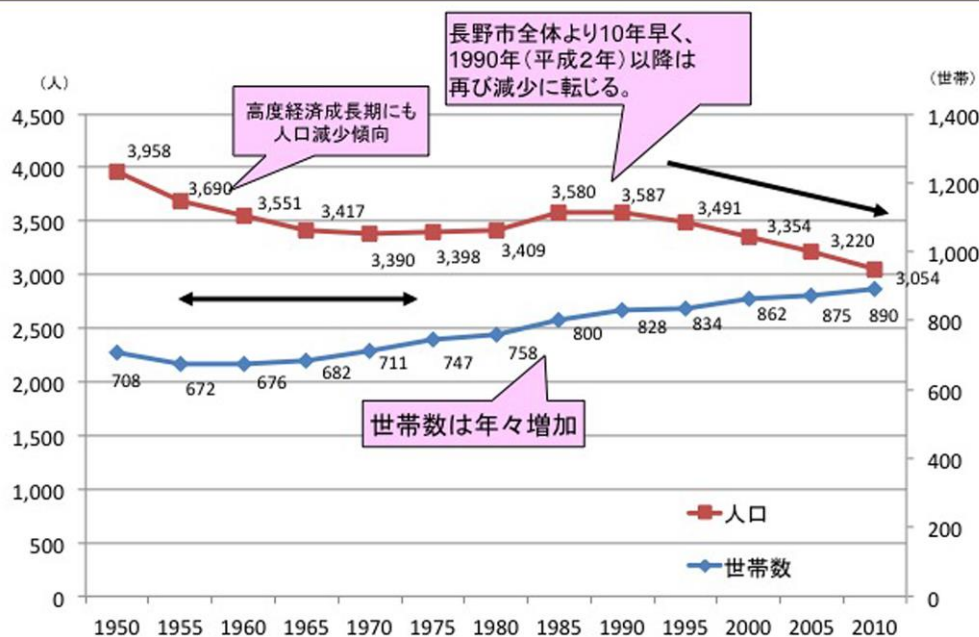


【資料】実績：国勢調査結果、推計：国立社会保障・人口問題研究所 H25.3公表『日本の地域別将来人口推計』

若穂川田地区の人口の推移

2

・1950年(昭和25年)から1970年(昭和45年)の間は、人口が減少していた。
 ・その後増加するが、1990年(平成2年)以降、再び減少に転じ、2010年(平成22年)では、3,054人となっている。



【資料】実績：国勢調査結果

これまでの傾向が続いた場合・・・

3

・市内を市街地地域、市街地周辺地域、中山間地域の3地域に区分した場合、川田地区を含む市街地周辺地区の年少人口の構成比の減少率は△3.3%

市街地周辺地域における推計(2010 → 2040)

	2010年		2040年	
	人数	構成比	人数	構成比
年少人口(0～14歳)	30,500	15.1%	20,946	11.8%
生産年齢人口(15～64歳)	123,226	61.1%	94,084	52.8%
老年人口(65歳以上)	47,685	23.6%	63,069	35.4%

川田地区の年齢構成(2010 → 2040)

	人数	構成比
年少人口(0～14歳)	342	11.2%
生産年齢人口(15～64歳)	1,827	59.8%
老年人口(65歳以上)	885	29.0%

イメージ

10人中
1人未満?
5人程度?
4人以上?

【資料】実績:国勢調査
推計:長野市独自推計

V 川田地区の課題

川田まちづくり計画に関するアンケートの結果について（平成28年6月実施）

回答概要

世帯総数	834世帯	回答数	761世帯	回収率	91.2%
------	-------	-----	-------	-----	-------

問1 人口減少について

大きな人口減少が続いております。川田地区の人口減少を防ぐためには、何に一番力を入れるべきだと考えますか？

ア) 子育てを充実する	25.3%	ウ) 婚活制度を充実させる	18.2%
イ) 空き家を活用する	16.4%	エ) 住宅の建設を進める	29.8%

オ) その他 10.3%

◎交通の便が悪い(落合橋の渋滞、バスが不便)

◎保育園の補助や、小学生の学びの環境充実など子育てしやすい地区に特化する

◎結婚相談所の開設

◎空き家の利用促進と家賃の補助

◎結婚に奨励金

問2 旧川田駅跡地の活用について

長野電鉄須坂屋代線が廃止になって5年が経過しております。川田駅の跡地の活用の具体化はまだできておりません、どのような活用法が良いと思いますか？

ア) お祭りができる 多目的広場	34.8%	ウ) 子供が遊べる公園	29.6%
イ) 駐車場	9.1%	エ) 住宅分譲	20.4%

オ) その他 6.1%

◎大型バスが通行できる道路と駐車場

◎バス利用者のための駐輪場・駐車場

◎観光拠点、緊急避難場所

◎若者向け市営住宅

◎福祉施設(デイサービス、お茶のみサロン)

◎住民の草刈り等の負担解消のため

住宅分譲

問3 旧川田駅駅舎について

旧川田駅駅舎は、若穂公民館発行の「若穂の文化財」にも載っている、大正時代に建設された近代の建築遺産ですが、どのようにしたらよいか伺います？

ア) 耐震改修をして人の集える場所 (お茶のみサロン等)に利用する	55.6%	ウ) 解体して新しいバス待合所 を作る	19.9%
イ) ボランティア等の事務所	16.3%		

エ)その他 8.2%

- ◎ 耐震改修をして大正時代の面影を残す ◎空襲の駅で残す
- ◎ 文化資料館と観光案内所で残す
- ◎ 価値なし、解体する

問4 電車について

旧川田駅には、特急電車3両、通勤電車2両、古い昭和初期の電車1両が停車しております、この活用方法について伺います？

ア)トットちゃん電車のような子供の学習の場、図書館	35.4%
イ)食堂等休憩ができる所	24.2%

ウ)地場産の販売などの売り場	31.6%

エ)その他 9.7%

- ◎図書館・食堂・販売所を備えた複合的な場所(買い物難民に生活必需品の販売も)
- ◎屋根を付けて見学できるように
- ◎最初は電車パークのはずではないか初期の目的を
- ◎農協祭や夏祭りに飲食ができる(ビールで花火を楽しむ)
- 電車を解体 (19件)

問5 電車の旧線路敷について

線路敷は、市の方針で遊歩道(通学路)としての活用が決まっています。どのような遊歩道にしたいとお考えですか？

ア)桜並木が美しい遊歩道	42.0%
イ)ランニングコース	6.3%

ウ)ウォーキングコース	45.3%

エ)その他 6.3%

- ◎高齢者の歩くイベントに活用 ◎四季の花を植えたサイクリングコース、マラソンコース
- ◎桜だけでなくアジサイ、つつじなど年中楽しめる植栽
- ◎維持管理を少なくして住民の負担を無くす
- ◎ランニング、ウォーキング、サイクリングなども楽しめるように
- ◎一般道との交差点の安全確保を ◎駅舎電車とセットで遊歩道の活用を
- ◎途中にベンチとか雨宿りできるあずまやを
- ◎バス専用道にする ◎403号線のバイパスで

問6 「スマートインターチェンジ」と「道の駅」について

スマートインターは、上信越自動車道と主要地方道長野菅平線の交差付近に仮称「若穂スマートインターチェンジ」の設置を、建設期成同盟会を発足させ市を通じて国県に要請しております。

また併せて、スマートインターの近くに地元農産物の販売、大規模災害時の防災拠点、避難場所等

の仮称「若穂道の駅」の建設の要望を市に要請しております。

スマートインター及び、道の駅について「こんなスマートインターにしたい」「こんな道の駅にしたい」などご意見をお聞かせください

- ◎インター設置には長野菅平線の改修、落合橋・関崎橋の渋滞解消が必要だ
 - ◎若穂の特徴を生かした食事処・休憩所・特産物販売所等人の集まる場所に
 - ◎地元の人が働ける道の駅に
 - ◎千曲市でも要望しているスピード感をもって推進を
 - ◎フルインターチェンジにしてほしい
 - ◎小布施ハイウェイオアシスのように使いやすくコンパクトな利便性のある場所を
 - ◎フリーマーケット、トラック市など誰でも出店できるコーナーを
 - ◎生鮮食品生活用品などのスーパー方式の道の駅
 - ◎川田宿・川田駅と道の駅を一体的に考えて
 - ◎ジビエの販売・食事ができる処
-
- 静かな環境が良いので反対
 - 税金の無駄使い
 - 必要なし (反対意見●17件)
 - 若穂の総意なのか必要性がわからない
 - 学校や保育園の通学の安全が確保できない

全般に渡って、お気づきのことがありましたら記入してください

人口を増やすには交通の便をよくする、スーパーやショッピングの誘致、教育環境の充実により移住者の増加などの意見が多い

- ◎落合橋の改良・4車線化 主要な道路の改良を(交通渋滞・安全対策)
- ◎五輪大橋を無料化に、
- ◎このままではバスは廃止になってしまう、住民に危機感がない
- ◎バスを小型にして便数を増やす
- ◎遊休農地解消のため新規農家の支援を
- ◎市街化調整区域、農業振興区域を外してほしい、活性化ができない
- ◎住宅地をつくり人口増加に力を入れる、交通の便をよくする、橋の向こうと言われないように
- ◎教育特区を(小・中)を活用して他地区から住みたいと思う学校づくり・教育環境の充実
- ◎若い人(次世代)をメンバーに入れて検討して
- ◎ハード面だけ整えても長続きしない、専門のボランティア組織と体制作りが急務
- ◎若穂3地区で統一した方針で進むことが大事
- ◎それぞれの場所で考えるのではなく、総合的に考えて無駄のない計画を
- ◎若い人が無関心、何もかも遅れている、小さな利益ばかりを求める寂しいところ
- ◎何かを起こそうとしても市の意見の強さでできないことが多すぎる
- ◎役員選出の負担を軽く、住民総出の草刈り等の負担を軽く

アンケート結果に基づく今後の方向性

1 人口減少について

住宅の建設を進める	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅団地の建設は非常に困難（長野市の回答）（市街化調整区域から市街化区域への変更不可） ・優良農地の地目変更は不可(農水省) ・地目が宅地の場合の建設は可能（空き家の活用） ・分家住宅、沿道サービス業等の建設は可能（従来より）
子育ての充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育支援の充実など、子育てしやすく住みやすい地区としてPRする ・結婚相談など婚活の支援を検討する
空き家の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家情報の収集、空き家活用の支援

2 川田駅跡地活用

多目的広場	<ul style="list-style-type: none"> ・公園機能を持つ多目的広場 ・川田まつりができる広場 ・バス利用者のための駐車場・駐輪場 ・その他利用方法の検討
-------	---

3 川田駅舎の活用

人が集まれる場所	<ul style="list-style-type: none"> ・バス待合所を含めて観光案内など人が集える場所を検討する ・その他維持管理を含めて利用方法の検討
----------	---

4 電車の利用方法

	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども図書館など利用方法について、維持管理または撤去を含めて検討
--	---

5 線路跡地の利用

	<p>長野市千曲川新道活性化プラン（河東線跡地利用計画）の早期実現を要望していく</p> <p>（駅は多目的広場、駐車場、駐輪場ほか）</p> <p>（線路は遊歩道、自転車道）</p>
--	--

6 道の駅、スマートインターチェンジ

スマートインターチェンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・県道長野菅平線との接続部の大幅改良が必要、落合橋関崎橋などの改善を併せて県市に要望していく
道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・休憩所、スーパー方式の生鮮食品売り場、広域避難場所、防災拠点をメインに要望していく

7 その他の課題

地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地解消のため新規農家の支援の検討、農業振興を進めていく ・買物難民の解消のための方策の検討
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・千曲川右岸堤防の完成堤防化及び保科川、赤野田川改修の促進
人材	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化のための人材の育成

VI 実行計画

各地区まちづくり計画実行委員会は、綿内計画実行委員会、川田まちづくり実行委員会、保科まちづくり実行委員会を言う

1 地域振興事業

(1) 若穂地区地域振興事業

	事業名	事業概要	主な担当者	主な協力者	実施年度
1	綿内・川田駅の敷地・駅舎・電車（川田駅）等有効活用	(1)より良い活用方法を長野市に提案し早期実現を目指す。	自治協 まちづくり部会	区長会 各地区まちづくり計画実行委員会	H29～
2	若穂道の駅誘致	(1)国県市及びJAに陳情 (2)地場産品及びジビエ食品の提供 (3)防災拠点・災害時避難場所の機能併設 (4)スマートインターに併せて建設	若穂スマートインターチェンジ建設期成同盟会 自治協	区長会 各地区まちづくり計画実行委員会 川田土地改良区	H28～
3	有害鳥獣対策事業とジビエ振興	(1)有害鳥獣対策の推進（電気柵防護柵設置等・狩猟免許取得支援） (2)ジビエの振興（ジビエ料理の開発・普及）	自治協 まちづくり部会 有害鳥獣対策協議会	区長会 地域発きらめき事業若穂地区実行員会 JAグリーン長野	H26～
4	公共路線バス等の維持・利用拡大	(1)3路線および乗合タクシーの維持と利用拡大 (2)利便性の高い公共交通の提言（パークアンドライド駐車場の整備）	自治協	区長会	H28～
5	人口減少対策	(1)空き家バンク推進事業 (2)婚活支援と結婚相談所開設	自治協 区長会 まちづくり部会	福祉保健部会 更北地区住民自治協議会	H29～
6	遊休・荒廃農地の利用	(1)地域おこし協力隊員や農業委員との連携による農地の利用と農産物のブランド化	自治協 区長会 まちづくり部会	農業委員会 土地改良区 JAグリーン長野	H29～
7	千曲川堤防改修	(1)完成堤防化 (2)浸透対策	千曲川堤防改修促進期成同盟会 自治協	区長会 各地区まちづくり計画実行委員会	H28～

(2) 川田地区地域振興事業

	事業名	事業概要	主な担当者	実施年度
1	旧川田駅周辺整備事業	(1)駅周辺は、多目的広場、パークアンドライド駐車場等で利用 (2)電車は、図書館、遊戯室等で利用 (3)駅舎は、バス待合所、資料館事務所等で利用	川田まちづくり実行委員会	H29～ H29～
2	人口減少対策	(1)空き家バンク推進事業 空家等宅地・中古住宅の購入促進 (2)Uターン、Iターン事業の推進 二男三男(女)に地区内での住宅建設の推奨 (3)川田帰って来いキャラクターの製作（かえる君）	自治協 区長会 川田まちづくり実行委員会	H29～
3	安心して住むことができるまちづくり	(1)千曲川右岸堤防の完成堤防化及び桜つつみ公園の整備 (2)保科川・赤野田川維持管理の充実 特に保科川合流部左岸の草刈りは川田地区で実施	区長会 千曲川堤防改修促進期成同盟会 自治協	H28～

2 福祉教育文化事業

(1) 若穂地区福祉教育文化事業

	事業名	事業概要	主な担当者	主な協力者	実施年度
1	旧町村歌による地域おこし	(1)地区に残る歌を掘り起しCD化して地域祭り等に活用・保存・伝承する (若穂音頭、綿内音頭、綿内小唄、保科甚句、保科の夕暮れ、川田青年会の唄等)	自治協 まちづくり部会 地域公民館部会	区長会	H29～
2	伝統食や伝統行事の伝承・普及	(1)食文化の大会開催 (2)伝統行事の集いの開催	自治協 まちづくり部会 食生活改善推進協議会	地域公民館部会 福祉保健部会	H29～
3	歴史・文化財等の保存・充実	(1)小学校余裕教室を利用して整備展示する (2)歴史ガイドの育成・組織作り (3)史跡マップ作製 (4)ホテルマップの作製	自治協 まちづくり部会	各地区まちづくり計画実行委員会 PTA 若穂郷土史研究会	H29～
4	子育てのしやすいまちづくり事業	(1)子育て支援の充実 (2)小学校や児童館との連携事業	自治協 子育て青少年部会 若穂コミュニティスクール運営委員会	児童館 育成会 PTA	H29～
5	ウォーキングコース等整備	(1)オリンピック記念桜並木コースを保科温泉まで延伸 (2)太郎山・天王山トレッキングコース、古城山遊歩道、奇妙山トレッキングコースの整備 (3)名所旧跡巡りコースマップと共にモデルコースを作る	自治協 まちづくり部会	地区区長会 各地区まちづくり計画実行委員会 太郎山トレッキングコース愛護会	H29～

(2) 川田地区福祉教育文化事業

	事業名	事業概要	主な担当者	実施年度
1	健康増進ウォーキングコースの設定	(1)古城山遊歩道の整備と展望の確保	区長会 川田まちづくり実行委員会	H28～
2	子育てがしやすいまちづくり	(1)児童館と地域住民が連携した子育て支援 (2)スポーツを通して子育て教育の充実	川田まちづくり実行委員会	H28～
3	歴史・文化財等の保存と充実	(1)川田宿見学時の駐車場の整備他 (2)歴史の案内看板、トイレ看板等の整備充実	区長会 川田まちづくり実行委員会	H28～
4	川田夏祭りの継続	(1)地域の活性化と子供たちに良い思い出づくり (2)旧川田駅多目的広場の活用	川田夏祭り実行委員会 川田まちづくり実行委員会 区長会	H30～
5	川田公民館の建設	(1)旧川田駅敷地内に川田公民館の建設	区長会 川田まちづくり実行委員会	H31～

3 道路交通事業

(1) 若穂地区道路交通事業

	事業名	事業概要	主な担当者	主な協力者	実施年度
1	国道 403 号改良	(1)綿内地区内改良 (2)関崎橋東詰交差点改良	国道 403 号線改良促進期成同盟会(綿内) 国道 403 号線道路拡幅改良期成同盟会(町川田)	自治協 区長会 まちづくり部会	H29～
2	若穂スマートインター建設	(1)直轄調査対象として採択のため国へ陳情 (2)地権者に理解をいただく努力 (3)国県市等への陳情	若穂スマートインターチェンジ建設期成同盟会	自治協 区長会 まちづくり部会 川田土地改良区	H28～
3	主要地方道長野菅平線整備促進	(1)山間部の通年通行の実現 (2)歩行者の安全対策 (3)県市、警察への陳情	長野菅平線保科菅平間道路改良促進委員会 保科区長会 川田区長会	自治協 区長会 まちづくり部会 安協若穂支部	H29～
4	落合橋 4 車線化 主要地方道長野菅平線 落合橋南詰交差点改良	(1)県市等への陳情 (2)地権者との折衝補助	落合橋架替建設期成同盟会 牛島区落合橋南詰交差点改良建設促進委員会	自治協 区長会 まちづくり部会	H29～
5	千曲川新道建設促進 (旧屋代線跡地)	(1)建設促進 (2)利用法提案	自治協 区長会	まちづくり部会	H27～
6	千曲川堤防道路の建設	(1)屋島橋～関崎橋間の堤防道路は、完成堤防化と同時に全幅員 7m で整備し、市道として認定を行う(県道部分を除く) (2)若穂地区千曲川堤防改修促進期成同盟会総会開催時に、堤防道路整備についても要望活動を行う	千曲川堤防改修促進期成同盟会	自治協 区長会 まちづくり部会	H29～ H28.8 市長へ堤防道路整備の要望書提出

(2) 川田地区道路交通事業

	事業名	事業概要	主な担当者	実施年度
1	旧川田駅周辺整備事業(電車・駅舎を含む)	(1)駅周辺は、多目的広場、パークアンドライド 駐車場等で利用 (2)電車は、図書館、遊戯室等で利用 (3)駅舎は、バス待合所、資料館事務所等で利用	自治協 区長会 川田まちづくり実行委員会 ボランティアの会	H28～ 計画策定 H29 年度
2	市道大門町川田線の拡幅整備	(1)川田小学校(赤野田川橋)から町川田(川田宿入口)まで歩道の設置	区長会 川田まちづくり実行委員会	H28～
3	長野菅平線(大門塚本領家)間の整備促進	(1)事故多発のため歩行者の安全対策 (2)スマートインター・道の駅関連の改良、	主要地方道長野菅平線改良促進協議会 自治協	H28～

VII 資料

1 旧川田駅周辺活性化ボランティアの会

旧川田駅周辺活性化ボランティアの会 規約

第1 会の名称

「川田駅周辺活性化ボランティアの会」

第2 事務所

長野市若穂川田旧川田駅駅舎内におく。

第3 目的

本会は、ボランティアとして、旧川田駅跡地駅舎電車を含め多目的広場として、地域住民や訪れる人達が楽しく過ごすために必要な維持管理など自分達でできることを、積極的に活動して地域の振興と発展に寄与することを目的とする。

第4 活動

本会は、目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、旧川田駅周辺の多目的広場内での事業の実施、維持管理の内、ボランティアで実施可能な活動。
- 2、駅舎の耐震対応の要請と屋根の塗装、室内の清掃等、ボランティアで実施可能な活動。
- 3、電車の塗装、内装等の実施で、ボランティアで実施可能な活動。
- 4、その他、本会の目的達成のために必要な活動を行う。

第5 会員

本会の会員は、ボランティア精神で趣旨に賛同した下記登録者とする。

- 1、川田まちづくり計画策定委員会、川田区長会、川田開発委員会の委員及び元委員。
- 2、各地区のPTA、育成会等各種団体の会員の内、趣旨に賛同者。
- 3、その他、本会の目的に賛同し、会長が認めた者。

第6 組織

本会の組織は、川田まちづくり委員会会長を会長に、副会長は3部会リーダーが務める。

また、会長の指名した事務局長を中心に活動を進める。3部会が担当し案を作り、全体会議（年1回の総会、および役員会）に諮り決める。

第7 会費

年額 500円 （傷害保険料含む）

附 則

この規約は、平成29年10月1日から施行する。

2 川田まちづくり実行委員会組織

川田まちづくり実行委員会組織（案）

平成 30 年 1 月

1 推進組織

- 顧問： 前区長会長、前正副開発委員長、市議会議員、農業委員、農協理事
委員長： 区長会長 開発委員長（まちづくり部会長）
副委員長：まちづくり 3 部会長
幹事： 3 副部会長
事務局： 事務局の他 3 部会に事務局を置く
構成員：各区長、各副区長、地区選出開発委員、区長会推薦委員、土地改良区(3)、農地
利用最適化推進委員、民生児童委員、川田分館長、地公連会長、育成会長、P
T A 会長、公募委員、農協職員、各種期成同盟会（落合橋、関崎橋、長菅線）

2 主な担当

(1) 地域振興部会

- 部会長：開発委員 副部会長：JA 若穂支所長
部会担当事務局：開発委員会、区長会
部員：開発委員、区長会、川田分館長、農業委員、JA グリーン長野、公募委員、

(2) 福祉教育文化部会

- 部長：代表区長 副部会長：開発委員会
部会担当事務局：開発委員会、区長会
部員：開発委員会、区長会、民生児童委員会、地公連、小中 PTA、育成会、児童館、
公募委員

(3) 道路交通部会

- 部長：土地改良区 副部会長：区長会
部会担当事務局：事務局と区長会
部員：開発委員会、区長会、地公連、R403 期成同盟会（川田）、長菅線促進委員会、
落合橋南詰改良委委員会

4 主な活動

(1) 定期総会

- 4 月～5 月 全体総会、役員会 部会開催 年間計画、部会間調整など
9 月～10 月 中間報告会、計画修正・調整など
2 月～3 月 年間反省、課題把握、次年度展望

(2) 役員会、部会は 必要に応じて開催する

その他、年間計画に基づき総会で決定し実行するが、部会で実施可能なものは、
役員会に諮り進捗していく

3

川田まちづくり計画策定委員会の経緯

川田まちづくり計画策定委員会の経緯等まとめ

平成 28 年度

平成 28 年 5 月 10 日第 1 回 委員会

川田まちづくり計画を区民への意見聴取（アンケート調査）について

平成 28 年 7 月 25 日第 2 回 委員会

アンケート集計及び重点事項について

平成 28 年 8 月 29 日第 3 回 委員会

計画の 3 部会追加課題検討及び若穂地区と川田地区が推進・実施する分類分け

平成 28 年 11 月 14 日第 4 回 委員会

旧川田駅周辺整備計画について現地調査と検討及び、独自で実施・推進する事業について

平成 28 年 12 月 12 日第 5 回 委員会

旧川田駅周辺整備並びに駅舎・電車については、ボランティアとして将来プラスの遺産となるよう残すための、市に向けて可能な限りの助成を強く要望して行く。

平成 29 年 1 月 30 日第 6 回 委員会

「川田駅周辺活性化ボランティアの会」の設立

平成 29 年 3 月 1 日第 7 回 委員会

平成 29 年度

平成 29 年 5 月 23 日第 1 回 委員会

28 年度までの経緯と 29 年度事業計画について、平成 28 年からの宿題について

平成 29 年 6 月 26 日第 2 回 委員会

川田まちづくり計画(素案)修正と検討。

平成 29 年 7 月 31 日第 3 回 委員会

3 部会又はボランティアの事業で、本年実行（着手）可能事業について

平成 29 年 8 月 28 日第 4 回 委員会

川田まちづくり計画(素案)の修正と検討、3 部会又はボランティアの事業予定を報告

平成 29 年 9 月 27 日第 5 回 委員会

川田まちづくり計画(素案)の修正と検討、3 部会又はボランティアの事業を始める。

平成 29 年 10 月 23 日 ボランティア事業 駅舎屋根塗装用足場作り、草刈り

平成 29 年 10 月 30 日 ボランティア事業 駅屋根塗装 足場解体

平成 29 年 11 月 29 日第 6 回 委員会

川田まちづくり計画(案)について、3 部会とボランティアの事業の継続と今後の対応。

平成 30 年 1 月 17 日第 7 回 委員会

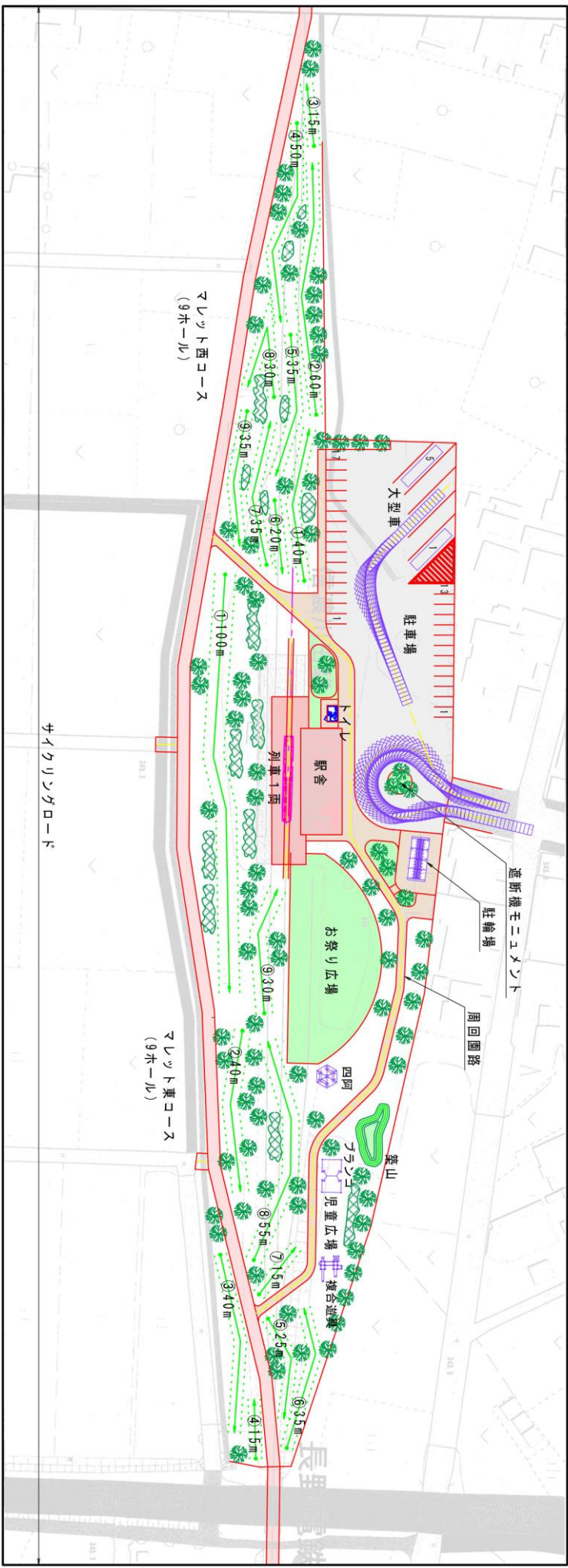
川田まちづくり計画(案)の印刷と配布について、川田まちづくり実行委員会の発足と移行について

川田まちづくり計画策定委員会（平成28年度29年度）								
顧問	岡田 荘史（市議会議員）							
委員長	高山 茂和		事務局			橋本 淳		
副委員長	長田 健		事務局			小森 新一		
副委員長	西村 昇		事務局			伊藤 和好		
副委員長	中島 清		事務局			伊藤 治好		
地域振興部会			福祉教育文化部会			道路交通部会		
部会長	長田 健		部会長	北島 光雄	28	部会長	中島 清	
副部会長	小森 新一		部会長	西村 昇	29	副部会長	小林 寛	28
部会事務局	岡田 治行		副部会長	小森 郁夫	28	副部会長	伊藤 治好	29
部会事務局	関屋 洋介		副部会長	伊藤 和好	29	部会事務局	橋本 淳	
委員	倉島 俊一		部会事務局	宮入 勤		部会事務局	檜本 茂治	
〃	坂口 則夫		部会事務局	松澤 壽		委員	義家 友治	
〃	伊藤 昭衛		委員	萩原忠一郎		〃	伊藤 武夫	
〃	竹内 道治		〃	中澤 英行		〃	小森 福治	
〃	田牧 雅夫		〃	小泉 忠夫		〃	今井 公吉	
〃	小林 邦夫		〃	西澤 宏嘉		〃	近藤 栄二	
〃	高山 茂和		〃	水島 隆		〃	竹内年二三	
〃	大日方 隆		〃	渋谷 定行		〃	伊藤滝城雄	
〃	坂口 伸一		〃	北城 厚		〃	小森 三郎	
〃	野田沢富夫		〃	村田 憲之		〃	常田 幸夫	
〃	相馬 理志		〃	中島 和夫		〃	常田 悟司	
〃	小泉 金夫		〃	元田 茂男		〃	宮沢 静雄	
〃	田牧 牧夫		〃	宮沢 功		〃	本井 治	
〃	北城 一秀		〃	小山 芳郎		〃	伊藤 茂治	
			〃	宮沢 嘉昭		〃	和田 博次	
			〃	内堀 美和				
			〃	嶋田 直人				

メモ欄

学年 年 組

氏名 _____



6 川田へかえる Uターン、Iターンシンボルマーク

Come back to Kawada 川田へかえる
 このシンボルマークは、就職や学業のためふるさとの川田を離れても、またいつの日か、ふるさとの川田に戻って生活をしてほしいという願いを込めたものです。
 通勤に不便などを理由にせつかく地元に戻っても、市街地に住宅を確保してしまうなど、故郷を捨ててしまうケースが後を絶ちません。
 いつまでもふるさと川田を大切にしたいものです。

